

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム設楽の家
(ユニット名)	3号館
所在地 (県・市町村名)	愛知県北設楽郡設楽町
記入者名 (管理者)	垣内千鶴
記入日	平成 19 年 6 月 20 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型として、住み慣れた地域でなじみの人達と安心した暮らしができるように支援することを事業所の理念とする。	<input type="checkbox"/> 地域密着型となり、その人が長年暮らしてきた環境、また、地域の顔見知りの人達との交流によって、その人らしく、ゆったりとありのままに暮らして行って頂きたいと考えます。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや利用者に関わる際、理念に触れ確認し合うようにしている。	<input type="checkbox"/> すべての職員が理念について理解をし、それを介護に反映できるようにして行きます。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	住み慣れた環境の中で顔見知りの方達と関わり生活する安心感を知って頂き、お便りや見学会によってどのように過ごされているか理解して頂くようにする。	<input type="checkbox"/> どこまでも個人のプライバシーは守るようにし、これからも家族の方や地域の方に理解して頂けるようにして行きたいと考えます。
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や外出などに出掛け、近隣の人たちと挨拶を交わしたり話をしている。	<input type="checkbox"/> 地域的に狭く、受診に出掛けたり買い物に出掛けた際、顔見知りの方達と会う機会も多いので、きっかけを作っていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元小学校の運動会見学を企画して利用者とともに積極的に参加している。	<input type="checkbox"/> 地域のお祭りや運動会には参加し、ボランティアの方も時々ホームに来て頂いているが、もう少し地域との関わりを持っていったら良いと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員が認知症、その他介護に対しての知識をいろいろな研修に参加して得ることが必要。また、それを役立てるべきだと思います。	○	豊富な知識を得るように、職員も研修等に積極的な参加が必要。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で評価に取り組み、年1回の評価を事業所の質の確保に最大限に活かして、改善すべき点等積極的に取り組んでいます。	○	前回の評価結果と比較し、質の確保の向上がどのように改善されているか確認し継続して行きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、定期的に会議を開き施設の意向、取り組み等話し合いをしています。	○	見識のある方々から意見を頂きながら、事業所の考えも理解して頂き、少しでも快適な場所を提供できるようにして行きたいと思っています。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、役場、居宅介護支援事業所等を訪問し、情報などの交換を積極的にしています。	○	地域密着型を機に積極的な連携を取ってサービスの向上に取り組んでいきたいです。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員に関しては、十分に理解できていない人もいます。	○	制度の理解をし活用できるように研修会等開催し勉強したいです。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者に対しての虐待が見過ごされる事のないよう注意を払い防止に努めている。	○	高齢者虐待防止法に関する理解、浸透に向けた取り組みを行う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>時間を取って丁寧に説明し同意を得るようにしている。契約についても契約書を読み十分な説明をして納得を得た上で契約をしている。</p>	○	これからも契約に関する説明と納得のいく契約や解約をし、利用者や家族が不安を抱かないような取り組みをしていく。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>利用者の言葉や態度から思いを察する努力をし、その不安を職員で話し合い日々のケアに活かせるように努めている。</p>	○	利用者又は家族の方と常に信頼関係をもち、職員ミーティングにより、不満・苦情は速やかに対応するような機会を作っていく。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> <p>家族の来訪時には、日常の健康状態や生活等を説明している。また、月1回、暮らしぶりや行事等を書いてお便りを出している。金銭に関しては、1ヶ月毎の使途の領収書を送り定期的に報告を行っている。</p>	○	家族への報告はもちろん、来訪時には写真等を見て頂き、どのような生活をされているか理解して頂く。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>気軽に意見、不満、苦情を出して頂けるような雰囲気を作り信頼関係を築いている。</p>	○	今迄は、家族からの不満等の問題も無く信頼によって、良い関係を保持しているので、このまま継続して行くのが理想だと思う。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>管理者を交えた職員ミーティングを月1回行い、意見を聞くようにしている。日頃から職員がコミュニケーションを心がけ、話題を共通に持ち介護に反映させている。</p>	○	職員が自分の意見を出した時には、管理者からのアドバイスがあり、それを参考に自分なりに提案をし、良い方向に持っていけるようにしている。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>利用者ができる限り自由な暮らしができるようにローテーションを考えて組んである。</p>	○	状況に応じた対応ができるよう、ゆとりの人員確保をお願いしたい。
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>できるだけ顔なじみの職員が対応するようにしている為、ある程度職員の固定化をしている。利用者は落ち着いた生活を送っている。</p>	○	固定化する事で利用者に対しての理解度が深まり、体調管理等の細かい部分も把握できる。また、利用者に対して、ダメージは最小限になると思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	A課程・B課程・AA課程などの研修を受けています。	○ その他の研修等にも積極的に参加し、介護に対する質の向上を皆で共有していくべきだと思います。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は交流することはないが、管理者は訪問しています。	○ 他の事業所やグループホームへの見学をして、事業所以外の人材の意見や経験を聞き勉強したいと思います。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個人で決められた時間を毎日取る事は不可能なので、利用者と話をしたり一緒にテレビを観て心身を休める時間を確保しています。	○ それぞれが自分にとって一息入れる事ができれば、ストレスの軽減に結びつく事にもなるので、無理に時間を作らなくても、今迄のように利用者の方との休める時間を共有すれば良いと思う。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が意欲を持って働くことができるよう、資格取得に向けた支援を行い、取得後は、職員が向上心を持って働けるような対応をしている。	○ 身体的な管理も年2回健康診断をして、異常がないように心身共に管理されている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族だけではなく、本人から詳しく情報を集めて受け止める努力をしています。	○ ご家族、本人から細かく情報収集をして、できるだけ本人の話しを傾聴するようにし、状況を把握するようにしています。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談に見えた時、情報収集を詳しく聞き、受け止める努力をしています。	○ 今、家族が一番どのような事に困っているかを把握し、十分な対応を心がけ、安心して信頼関係ができるよう努力しています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談にみえた時、ケアマネージャー等と連携を計り、必要に応じて他のサービス利用が必要な場合には速やかに対応する。	○	本人と家族に対しての対応を事業者だけで抱え込まず、何が本人に対して必要なのかを見極め、他のサービス利用の調整を行う。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	来所できる方は、何回か来ていただき、他の利用者様と話をされたりして馴染んで頂いてます。また、事前に訪問し、本人と顔なじみになり、少しでも不安を軽減するよう心がけています。	○	安心して、ここでの生活ができるように、本人に対して十分な理解をし対処するよう職員一同で努力する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	楽しい時には、一緒に笑い、落ち込まれた時には、一緒に悩んで助言をしたりしています。	○	生活を共にし一緒にいる時には、本人の気持ち、思いを十分にくみ取り、その人に合った対応をする。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を密にしながらも、共に本人を支える関係を築いている。	○	ご家族の来訪時には、差し障りのない距離をとり、本人との潤滑油になるよう心がける。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の日頃の状態をこまめに報告相談し、本人と家族との関係が途切れることのないように、良い関係が保持できるよう支援している。	○	ご家族の方に、行事参加などをして頂き、共通の話題をもって頂いたりする機会を増やして行きたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	正月やお盆などには、外泊され、近所の方々と交流をされています。	○	許される限り家族の方に協力して頂き、交流ができ喜びを感じられるよう支援しています。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人ひとりの長所を見つけて、その長所を活かし、皆様との交流を深めています。	○	一人ひとりの長所、短所を把握し、職員が調整役となって支援しています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	アフターケアの相談、助言等を実施しています。また、退居後の様子も気にかけています。	○	殆どの方が進行し、ここで生活できなくなって他の施設等に移られる為、関係を断ち切らないようにする事は、なかなかむづかしい事ですが、努力しています。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望、意向をその都度聞き、把握するように努めています。	○	その日の様子を把握し、何をしたいのか、何を訴えたいのかを感じ取り、できる限り本人の意向に添えるようにしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様、本人様の話をよく聞き、情報収集しています。	○	日常会話等を通して、これまでの生活歴を聞き、個人個人の経てきた暮らし方に対して、敬意を表し、その暮らし方に、最も近づけるような支援をして行きたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員間で情報交換したりして、把握するよう努めています。	○	一人ひとりのできる能力に合わせて、持っている力を出して、自信を持ち、喜び楽しみが感じられるような生活ができるよう支援して行きたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	第一に本人が何をしたいのか、何をしたいのかを取り入れ、定期的カンファレンスを行い、職員の情報、意見を参考に介護計画を立て、状態が変化した時には見直しを行っている。	○	一人ひとりに沿った個別の無理のない介護計画を立て、職員についての問題点ではなく、利用者主体の暮らしを反映した介護計画を作成するようにして行きたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が変化した時には、終了する前であっても、職員でミーティングを開き、検討見直しを行っている。	○	現状と介護計画の違いがないよう実状に応じたケアにつながるような、介護計画の見直しをして行く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録(日中の様子・バイタルチェック・便、食事量のチェック)や申し送り、カンファレンス等で情報を共有し、見直しに役立てている。	○	今迄通り、細かくチェックし記録等を残していきます。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の方の都合のつかない時等には、受診・買い物・散髪等に職員と一緒に出かけます。	○	これからもそのようにして行くつもりですし、その機会を利用して、より信頼関係を深めて行きたいと思います。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的に避難訓練や救急救命講習には参加し、非常時に備えています。また、ボランティアの方に行事に参加して頂いたりしています。	○	地域の機関等と協力しながら、必要に応じた対応をして行きます。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネジャーやサービス事業者とは密に連携を取り、積極的に支援しています。	○	本人にとって最も適したサービスを利用できるよう継続してほしいと思います。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域のサービス事業者、関係団体、民生委員、一般住民等によって構成される方達によって、認知症の方を地域で支える為、協働しています。	○	これからますます認知症の人が多くなって、より一層地域包括支援センターとの協働が大切になっていくと思います。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に受診をし、健康状態を把握して頂く様にしています。	○	定期的な受診をして、こちらも詳細記録を残し、必要に応じて参考にして頂くようにしています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	指定医の指示に従い、支援を受けられるようにしている。	○	常に指定医との連携を結び、必要性がある時には、最も適切と思われる所に紹介状を書いて頂いている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	特に看護職との協働はしていない。	○	職員が状況判断をしているが、看護資格を有する職員がいれば心強いので配置してほしい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院のソーシャルワーカー等に意見を聞き参考にしている。	○	面会に行った時等、その時々の状態を病院関係者から情報を得て把握するように努めている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームでは、医療的な事はできないので、重度化した場合病院に願う。	○	常に連絡を密にし、緊急の場合には早急に対応できるよう、かかりつけの医師とも連絡を取っておき、本人や家族に不安を抱かせないような対応をしていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医、ご家族様、施設の職員と話し合いを持ち十分に検討している。	○	十分に検討し、家族・本人にとって、もっとも良い方法が取れるよう支援している。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えの時には、本人に不安を与えないよう情報交換を行っている。	○	本人に対して、何が一番ダメージを最小にとどめるかを、職員・家族とで話し合い、情報交換するように行う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員一同、常に気をつけている。	○ 本人のプライドを傷つけるような言葉かけや行動、プライバシーを損ねるような対応は、常に気をつけるようにしています。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	誤解のないよう話し合い納得して頂いている。	○ どのようなことでも本人の意思決定を優先に、希望を持ち納得して生活できるような支援をしていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の体調により、希望は許される限り聞いて、生活に意欲を持って頂くようにしている。	○ 何を訴え、どのようにしていきたいのか一人ひとりのペースを把握し、その人に合った支援をできる限り希望に添えるようにして行く。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	常に、清潔・身だしなみに気をつけて支援している。	○ お店には行けないけれど、家族の方が揃えて下さった中から、本人の趣味が活かせるような、着こなし等支援し楽しんで頂いている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの調理の工夫に気を配り、好みを取り入れ、強制的ではなく希望に沿って、お手伝いをお願いします。	○ 彩りなど調理・盛り付けに工夫し、食欲が出るよう気をつけ、自発的なお手伝いをして頂いています。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	できる限り支援したいが、現状ではなかなかできません。	○ 健康状態から取り入れられない物もあるし、共同生活では、無理なものもある。許される物であれば、楽しめるようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	清潔を第一のモットーとし、汚れたら替える事を優先としています。早め早めのトイレの声かけ・誘導を支援しています。	○	トイレの清潔を心がけ、気持ちよく排泄の場所を使用できるように気配りをしています。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとり希望の時間帯に入浴が出来れば理想なのですが、無理なので、時間帯を決めて許された時間内にゆっくりと入って頂くようにし、毎日、入浴できるように心がけています。	○	時間帯は変えられないので、許される時間の中で、十分に楽しんで頂けるように支援します。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者様、それぞれに自由にして頂いています。夜間は、早くお休みなられた方に対して、テレビの音量、照明が気にならないよう気配りをしています。	○	布団干しやシーツの洗濯はこまめにし、気持ちよく眠れるようにしています。空調等にも気配りをしています。
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	全員に意欲を持って頂けるようにするには、介護度の点などで、無理なので、個々にあった楽しみや役割をして頂いています。	○	行事参加、外食、外出、買い物にも出掛けるように、企画を増やして行きたいです。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で金銭管理をする事は一切していません。	○	トラブルの原因になるので、職員が全てしています。今後も、方針は変わらないと思います。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	環境にとっても恵まれている所なので、利用者様一人一人の希望を受け入れ、散歩、日光浴は積極的に実施しています。	○	これからも、気分転換、筋力の低下を防ぐ為にも、希望に沿った支援をしていきます。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食等には、月1回程出掛けられるよう、企画を立てるようにしています。	○	ご家族の方と出掛けられる機会ができれば理想だと思います。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、手紙を出せるようにしている。電話は難聴や話の内容が理解できない場合があるので、職員が代わりに対応している。	○	月に一度、職員がご家族様へ、近況などを書いた手紙を出している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会に見えた時には、笑顔で接するように心掛け、また、湯茶を出している。	○	面会にみえた場合、必要に応じて居室でのプライバシーの話、また、他の入居者の方々との話し合いができる場等、職員が必要に応じて対応します。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人格の尊重をしている。	○	身体拘束は、絶対にしないことをモットーとして、介護に取り組んでいます。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関・居室に鍵をかけずに、自由な暮らしを支援している。	○	他のユニットへも自由に行き来できるようにしている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、フロアにいる職員が見守り、夜間はセンサーの使用、数時間おきの見廻りなどで、入居者様の様子を確認している。	○	特に夜間は、歩行見守りを重点におき、転倒やベットからの転落を防ぐ為、夜勤職員は入居者様の様子を把握している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品等は、職員が保管・管理をするか、ご家族様に説明をし持ち帰って頂いている。	○	物品がどのような危険をもたらすかを、ご家族の方に納得して頂き、了解された上で持ち帰って頂いている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故を未然に防ぐ為の工夫に取り組み、事故が発生した時には、管理者への報告や事故報告書の作成、及びご家族様への説明と報告を行っている。	○	全館を通し、情報の共有化をして、再発防止に役立てる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的には行っていないが、自主的に行っている職員もいる。	○	全ての職員が対応できるように、研修・勉強会などへの参加をする。知識や経験のある職員もいるので教えあう。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者と共に避難訓練を行っている。	○	地域の人々の協力が実際に得られるかわからないので、協力のお願ひなどの確認及び一緒になって訓練を行うとよいと思う。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族様へ、事業所の取り組みを説明すると共に、面会の時や電話なので、説明し理解をしていただけるように努めている。	○	入居者一人ひとりに対しての定期的な見直しをしている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、バイタルチェックをし、記録をつけ、職員間で申し送りをしている。	○	入居者一人ひとりの日々の様子を把握しておくとういと思う。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書が保管されており、職員が内容を把握できるようになっている。服薬時は本人に手渡し、服用できているか確認している。	○	薬の変更があった時には、様子を観察して異変に気をつける。誤薬のないように気をつける。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材の工夫や散歩、家事活動等で身体を動かすようにしている。1日1回、ヨーグルトを提供している。	○	排便チェックを毎日して、食べ物など特に気をつけている。頑固な便秘にならない内に対応している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	各居室内に洗面台があり、毎食後歯磨きの声掛けや介助をしている。	○	本人任せの所もあるので、毎食後口腔ケアの支援をする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の内容を記録している。一人ひとりの食事の量をチェックし記録している。	○	定期的に栄養士などにチェックしてもらいアドバイスが頂けると良い。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	指示により対応に取り組んでいる。	○	職員が感染症に対する知識を得る事が必要だと思う。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	清潔を心掛けている。食材等はできるだけ早く使用するようになっている。	○	食中毒のおきる時期には、刺身等の生ものは提供しないようにし、必ず食品には火を通し、まな板等の消毒は怠らないようにし、冷蔵庫の清潔にも気をつけている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花を植えたり、ベンチを置いたりしている。	○	鉢植えの花を置いたり、開放感や安全面から自動ドアのスイッチを切り、玄関の戸は開放して出入りしやすいように心掛けている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	話し声やテレビの音量に注意している。	○	常に室内は清潔を心掛け、壁には四季折々の花などを折り紙で折って飾り、季節に咲く野花を花瓶に入れ飾っている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内には、テーブルや椅子・ソファ・コタツなどがあり、入居者は思い思いの場所で過ごしている。	○	冬は、馴染みやすい畳の空間があり、コタツに入っておしゃべりしたり、テレビをみたり、トランプ・カルタ等のゲームを楽しむ事ができる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の各部屋には、家で使い慣れた道具や家具を持ち込んで頂くようにしています。また、花等を飾って楽しめるよう心掛けています。	○	個室等は、安全な場所として使用できるように、職員が注意を払っています。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	時々、換気をして、洗面所は毎日洗い流し、掃除もこまめにしています。空調も気温に応じ、こまめに調節しています。	○	現状を維持していきます。特に外からお見えになったお客様、ご家族様に不快な思いをされないように、なおいには気配りしています。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内には、至る所に手すりをつけてあり、外部から居室までの出入りまで、全てに段差なく歩く事ができ、トイレのスペースも広くシルバーカー、車椅子でも対応できるようになっています。	○	手すりを利用し、残存機能を活かして自立できるように支援していきます。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ、浴室には、わかるように大きな文字で表示し、日には大きな数字でカレンダーを作って、利用者様に毎日作った蝶々を止まらせるようお願いして、日付の確認をしています。	○	これからも、職員で色々な意見を出し合って検討し、混乱を防ぎ、自立した暮らしが維持できるように、工夫していきたいと思います。
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	施設の外周には、環境に恵まれ四季折々の景色が楽しめるので、野の花を摘みながら散歩を楽しまれています。	○	外にはベンチを何脚も置き、全館の利用者様が座れるようにして、歌を唄ったりおしゃべりをされたり、ラジオ、リハビリ体操をされたりして楽しまれています。これからも、いろいろな内容に取り組んでいきたいです。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
		<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/> ③たまにある
		<input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

アピールしたい点として、恵まれた環境の中、四季折々の景色を、身近に肌、目で感じる事は、認知症の方にとって、とても大事な事と思います。それができる当施設は最高だと思っています。心にゆとりをもち、きれいな景色を眺めて、自然を相手にゆったりとした毎日を過ごして頂けたらと、切実に願っています。畑には、季節毎の野菜を作って、収穫した物を各館で分け合い、食卓にのせ味わって頂いています。